

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

太 田 書道作品を書く折、名句を探すうちに、言葉遊びをするようになりました。かれこれ二十年になります。滑稽俳句は、滑稽俳句協会会員の田村米生様のご紹介でした。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

太 田 顔の筋肉を思い切り緩めて、優しい気持ちで詠めるところです。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

太 田 ビタミン剤のようなものかと思います。

編集部 滑稽俳句を続けて良かった事は？

太 田 心の中に遊び場が出来た感じです。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

太 田 まだまだ、今後の課題ですが、ふわりと心をジャンプさせることでしょうか。まずは、ホップ、ステップですね。これから宜しくご指導くださいませ。

【代表句】

花筏光琳屏風となりにけり

源平の椿二輪の重さかな

桃咲けば心ふつつふつ弾みゆく

御鏡ひびの罅ひびに触れたる指の輝

菩薩のごとく阿修羅のごとく蚊を払ふ